



金透坂



令和7年 8月 1日(金) 学校だよりNo.23

発行責任者 校長 嶋 忠夫

8月になりました!元気にお過ごしでしょうか?

早いもので今日から8月です。夏休みも3分の1が過ぎました。子どもたちは元気に過ごしているでしょうか。ぜひ、長い休みだからこそできることに取り組んでほしいと思います。また、家族の一員としての過ごし方ができるといいですね。子どもたちみんなが、思い出いっぱいの楽しい夏休みになることを願っています。そのためにも、交通事故や水の事故、また、熱中症には十分気を付けて、健康で安全な生活を送ることができるようお願いいたします。



■ ちょっといい話。 。 。

7月26日(土)に、郡山市PTA 連合会東ブロック勉強会として、家庭教育学級生合同学習会に2名の保護者の方と一緒に参加してきました。

基調講演では、家庭教育システム学院代表、ペアレントセミナー主宰の長谷川満先生から、「子どもを幸せに伸ばす10の秘訣」という演題でご講演をいただきました。その概要をまとめましたので、少し長くなりますが、お読みいただければ幸いです。



長谷川先生は、35年以上にわたり、多くの家庭教師を指導するとともに、自らも家庭教師として子どもたちと温かくて信頼できる関係を築くことで意欲を引き出す学習指導を実践してきた先生です。

「いい親になろうとせず、いい子を育てよう」という「無為」の子育てを提唱しています。「無為」とは、中国の老子の教えで、「余計なことをしないで、自然のままに任せること」だそうです。

千利休の「茶の湯とは ただ湯をわかし 茶をたてて 飲むばかりなると知るべし」という茶の道をシンプルに表した名言をもとに、子育てについて次のように話されていました。「子育ては ただ飯を食わし 服着せて 布団に寝かすことと知るべし」と。

また、「助長」という故事成語を例にお話されていました。「助長」とは、「苗が成長しないのを心配して、1本1本苗を上に引っ張って成長を助けたところ、苗は全部枯れてしまった。」という話からできたそうです。よかれと思ってした力添えが、結果的に害になってしまうという意味で使われるようです。

人間も自然の一部であり、教育は不自然のもの。やりすぎると自然をつぶす。子どもの自然を生かす、子どもの自ら向上していこうとする力、子どもの命の力を生かすことが大切。それが、子ど

もの自己成長力であり、自己成長力を高めるためには、子どもが「自分が自分であることがうれしい」「自分が自分で生まれてきたことがうれしい」「お父さんの子、お母さんの子、この家の子に生まれてよかった」といった自己肯定感を育てていきたい。このように無為の教育をお話しさせていただきました。

そして、「子どもを幸せに伸ばす10の秘訣」として次のようなお話をされていました。

子どもを幸せに伸ばす10の秘訣

1 子どもの自己成長力を信頼する（信じて待つ）

→ 親が子どもの自己成長力を信頼する、信じて待つことで、子どもは安心して生活できる。

2 ありのままを愛する（そのままのあなたが大好き）

→ やんちゃな子はやんちゃな子そのまま愛する。無条件の愛。子どもを変えようとしない。

3 子どもを尊敬する（もうすでにあなたは素晴らしい）

→ 教育で一番大切なこと、子どもを尊敬すること。

4 子どもを親の思い通りに育てようとしない（自然にお任せする）

→ 親が線路を引かない。自然に任せていくことが大事。子どもは親の作品ではない。

5 子どもの思い、ペース、自由を大切にする

（あなたはあなたのやりかたで、あなたのペースで）

→ 自分の子どもに、この家で育ってよかったことはと聞いてみたら、子どもの意見を尊重してくれたこと、自由があったこと、自分で決めさせてくれたこと。

6 家族仲良くする（許し合う、笑い合う、かたいことは言わない）

→ 同じく、この家に育ってよかったことは、家族の仲がよかったこと、毎日、あいさつが交わされていたこと。

7 子どもの話を聴く（関心をもつ）

→ 同じく、この家に育ってよかったことは、話を最後まで聞いてくれたこと。

「聴す」は「ゆるす」と読みます。その人の存在を否定せずに、理解しようとして聴くこと。

8 子どもの存在を喜ぶ（生まれてくれてありがとう）

→ 親は、子どもに与えることばかりを考える。子どもは親を笑顔にする幸せをもってくる。

9 親が幸せである（笑顔と感謝をもって暮らす）

→ 幸せな親が幸せな子どもを育てる。子どもに幸せをもらっている。

10 家をのんびりできる場所にする（心が安らぐ居場所）

→ 子どもは子育ての上手なお父さん、お母さんに育てて欲しいのではない。頭のいい親に育てて欲しいのでもない。そのままのお父さん、お母さんに育てて欲しいもの。自分のダメなところ、欠点を許し合う家庭の中で育つもの。

子育てを、自然のままに任せることは、勇気のいること、難しいことかもしれません。しかし、子どもたちは、与えられた環境の中で、着実に育っていくものです。長谷川先生が教えてくださった「子どもを幸せに伸ばす10の秘訣」を振り返って、一つでも実践してみると、親としての気持ちが楽になるかもしれません。子どもと接する機会が増える夏休み。この10の秘訣を心の片隅にそっとおいて、子どもに接してみてはいかがでしょうか。

子育てって、難しいけれど、楽しいものです。

